

耳よりウンチク学

効率的な回収の仕方

メーカーカタログには回収能力が表記されていますが、実際に現場で回収作業を行うと、なぜ時間がかかってしまうのでしょうか？それは機器から冷媒を抜いていくにつれて、下記のようなことが起こるからです。

- ①機器側の圧力（温度）が下がるため冷媒が抜けにくくなる。
- ②回収容器の圧力（温度）が上がるため冷媒が入りにくくなる。

そこでカパスからちょっとした裏技を紹介しましょう！

①電源を確保する

- 延長コード等を使用すると電圧降下を起こすのでトランスを用い安定電源を確保する。

②抵抗を減らす

- サービスポートのバルブコアやホースのムシ押しは全て外す。
- 内径が大きいホースや、ボア径が大きいマニホールドを利用する。

③冷媒は液に近い状態で回収

- できるだけポンプダウンを実施し、高圧側（液側）から回収を始める。ガス状になってきたら高圧・低圧の両ポートから回収する。
- アキュムレーターの配管から液回収を行うのも有効。着霜したり結露したら、温めたり振動させて蒸発を促す。

④温度・圧力を下げる

- 回収機や容器は日陰や通風の良い場所に置く。台の上などに載せ、床から離して置く。
- 濡れ雑巾を巻いたり霧吹き等で容器の温度を下げる。
- クーリングユニットや送風機を用い、冷媒や容器を強制冷却する。
- 予備として空の回収容器をなるべく日陰に用意しておく、回収速度が落ちてきたら早めに容器を交換する。
- サービスポート付のマニホールドを使ってサブクールラインを設け、適宜、容器の温度と圧力を下げる。

⑤その他

- 高圧停止すると復帰に時間がかかるので、回収装置の吐出圧力が高くないように、吸引圧力を抑えて回収する方が、結果的には早い場合もある。

※オイルバック（液バック）による回収機のコンプレッサー破損を防ぐためには、オイルセパレーターを使用する。

